

全国サーベイランスに基づくわが国のプリオン病の疫学像(1999年～2022年)

研究分担者：自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 阿江 竜介

研究協力者：自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 小佐見光樹

プリオン病の主な病型ごとの発症患者数の年次推移



解 説

1. サーベイランス結果より明らかになった発症患者数の年次推移を示す。
2. プリオン病を発症する患者数は増加傾向である。
3. 主に孤発性CJD・遺伝性CJDの患者数が増加している。
4. 発症からサーベイランスを経て登録されるまでに数年を要するため、2014年以降は見かけ上患者数が減少しているように見える。